

2024年3月27日

## 消費動向調査結果(2024年1月調査)

## 物価上昇で支出が増える中、収入増加への期待が徐々に高まる

本調査は、県内の消費動向や消費者意識を把握するため、県内1,000世帯を対象に、3カ月ごとに実施している。

 調査結果のポイント

## 1. 新型コロナ後の消費行動について

- ・ 新型コロナ5類移行後の消費行動は、「積極的」が「抑制的」を上回る
- ・ 消費行動を抑制する理由は、「物価の上昇」が7割弱

## 2. 物価の上昇について

- ・ 最近の物価は、「高い」と感じている割合が9割を超える
- ・ 「物価上昇により支出が増えている」割合が6割を超える
- ・ 家計支出を抑えている項目は「外食費」が最多
- ・ 最近の消費行動の変化は、「必要なものだけ買い、無駄なものは買わないようになった」の割合が約6割

## 3. 外食の意識について

- ・ 新型コロナ感染拡大前と比べ、外食頻度が低下した割合は4割強
- ・ 新型コロナ感染拡大前と比べ外食頻度が低下した理由は、「節約しているため」、「会食などお付き合いの機会が減ったため」がそれぞれ5割を超える
- ・ 外食を減らす代わりに増えた行動は、「食材を買い、家で料理をする」がトップ

## 4. 自然災害への備えについて

- ・ 今後準備する予定の物は、「長期保存できる食料」が約5割で最多
- ・ 住宅の耐震性に不安を感じている人のうち、耐震補強工事の実施予定がない割合は7割を超える
- ・ 耐震補強工事を実施しない理由は、「お金がかかるから」が7割超

➤ 今回の調査では、新型コロナを理由とした消費抑制割合は低下し、物価高を背景とした消費抑制割合が引き続き高い結果となった。また、コロナ禍に伴う行動制限がなくなったものの、外食の頻度は高まっていない。

➤ 住宅の耐震性に不安を持つ人の割合は半数を超えているものの、主に費用面を理由に耐震化が進んでいない現状が浮かび上がった。耐震工事を進めるための積極的な情報提供や資金面などの支援が求められる。

&lt;お問い合わせ先&gt;

一般財団法人 長野経済研究所 電話：026-224-0501

担当：調査部 主任研究員 須田 浩路

## 【調査の概要】

### 「消費動向調査」アンケート実施概要

調査時期： 2024 年 1 月下旬～2 月上旬

調査対象： 長野県内在住の 1,000 世帯

回答属性： 単独世帯 240 世帯  
二人以上世帯 760 世帯

性別 男性 50.0 % 女性 50.0 %  
年齢別

20 代	5.4 %
30 代	13.7 %
40 代	21.2 %
50 代	20.7 %
60 代	20.7 %
70 代以上	18.3 %

調査方法： インターネット調査

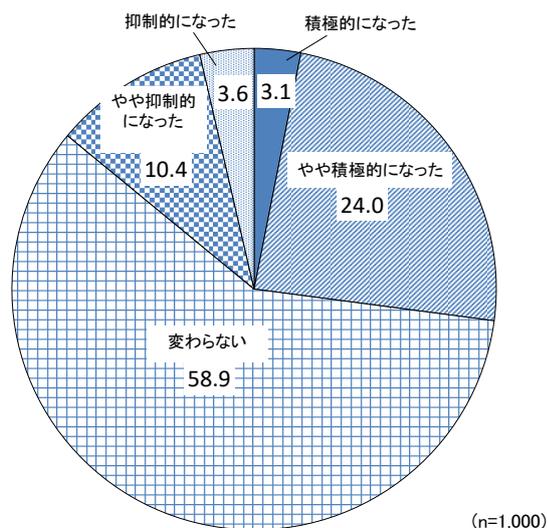
※ 四捨五入の関係で、合計が 100%にならない場合がある。

## 1. 新型コロナ後の消費行動について

### (1) 新型コロナの5類移行後の消費行動は、「積極的」が「抑制的」を上回る

- ・ 新型コロナが感染症法上の5類移行後（2023年5月以後）の消費行動を尋ねたところ、「変わらない」が58.9%と半数を超えた。
- ・ 積極的（「積極的になった」＋「やや積極的になった」）の回答割合は27.1%となり、抑制的（「抑制的になった」＋「やや抑制的になった」）の回答割合14.0%を上回った（図表1）。

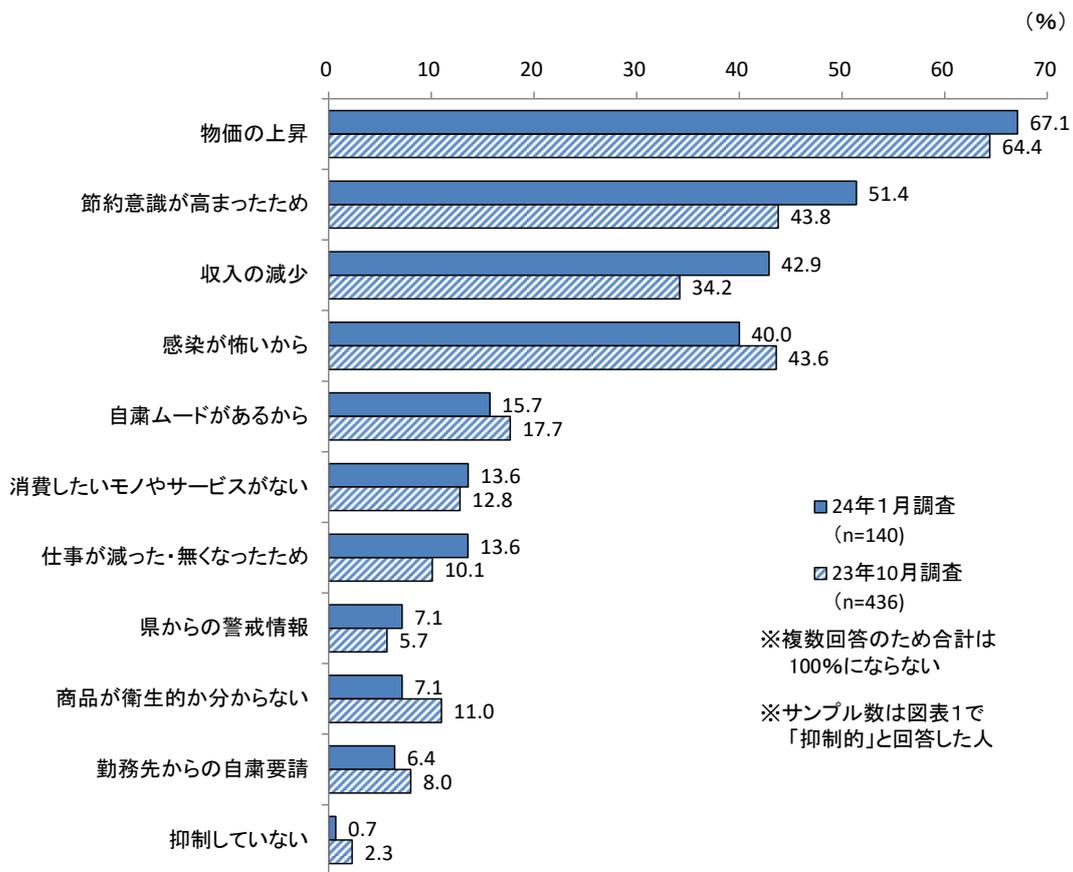
図表1 新型コロナ5類移行後の消費行動



(2) 消費行動を抑制する理由は、「物価の上昇」が7割弱

- 消費行動を抑制する理由は、「物価の上昇」が67.1%と最も多く、次いで「節約意識が高まったため」が51.4%、「収入の減少」が42.9%などとなった（図表2）。
- 前回（23年10月）調査と比較すると、「収入の減少」が8.7ポイント、「節約意識が高まったため」が7.6ポイント上昇する一方、「商品が衛生的か分からない」が3.9ポイント、「感染が怖いから」が3.6ポイント低下した。

図表2 消費行動を抑制する理由



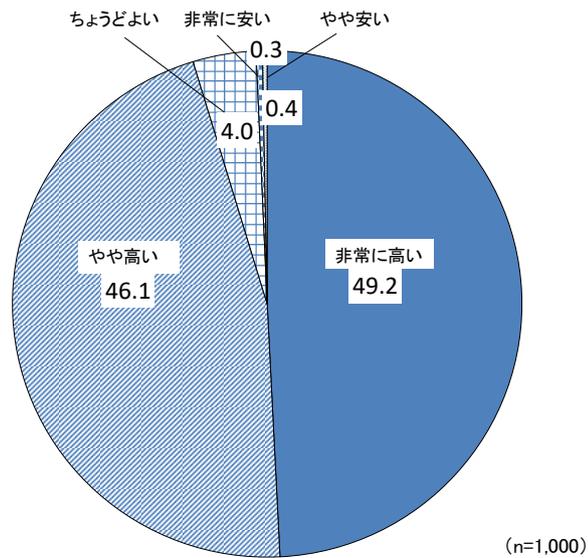
(注) 前回調査は、消費行動について、新型コロナ感染拡大前(2020年1月以前)と比較した

## 2. 物価の上昇について

### (1) 最近の物価は、「高い」と感じている割合が9割を超える

- 最近の物価についてどう感じているか尋ねたところ、高い（「非常に高い」＋「やや高い」）の回答割合が95.3%と9割を超えた（図表3）。

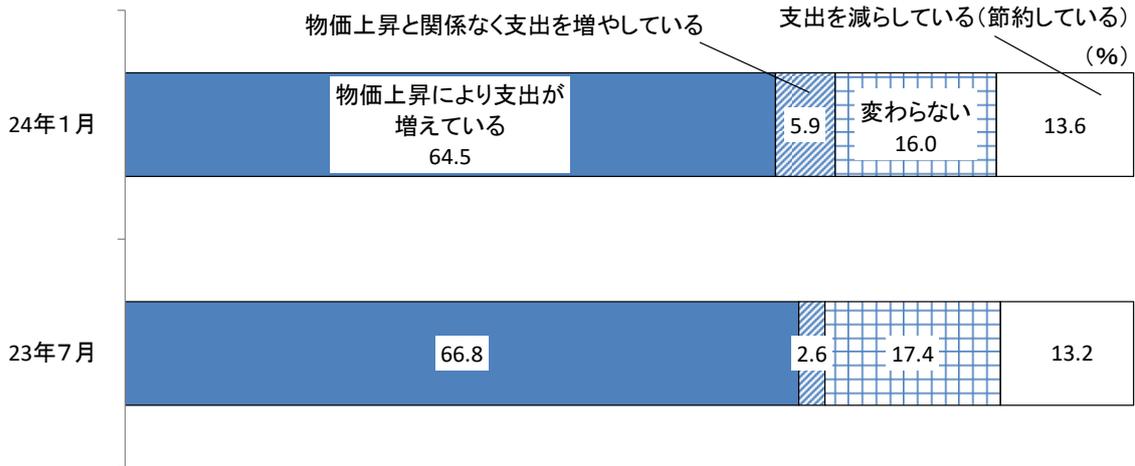
図表3 物価に対する意識



(2) 「物価上昇により支出が増えている」割合が6割を超える

- ・ 最近の物価上昇に伴う家計支出の変化については、「物価の上昇により支出が増えている」が64.5%となり、前々回（23年7月）調査よりも2.3ポイント低下した。
- ・ 一方、「物価上昇と関係なく支出を増やしている」が5.9%となり、前々回（同）調査から3.3ポイント上昇した（図表4）。

図表4 家計支出の変化

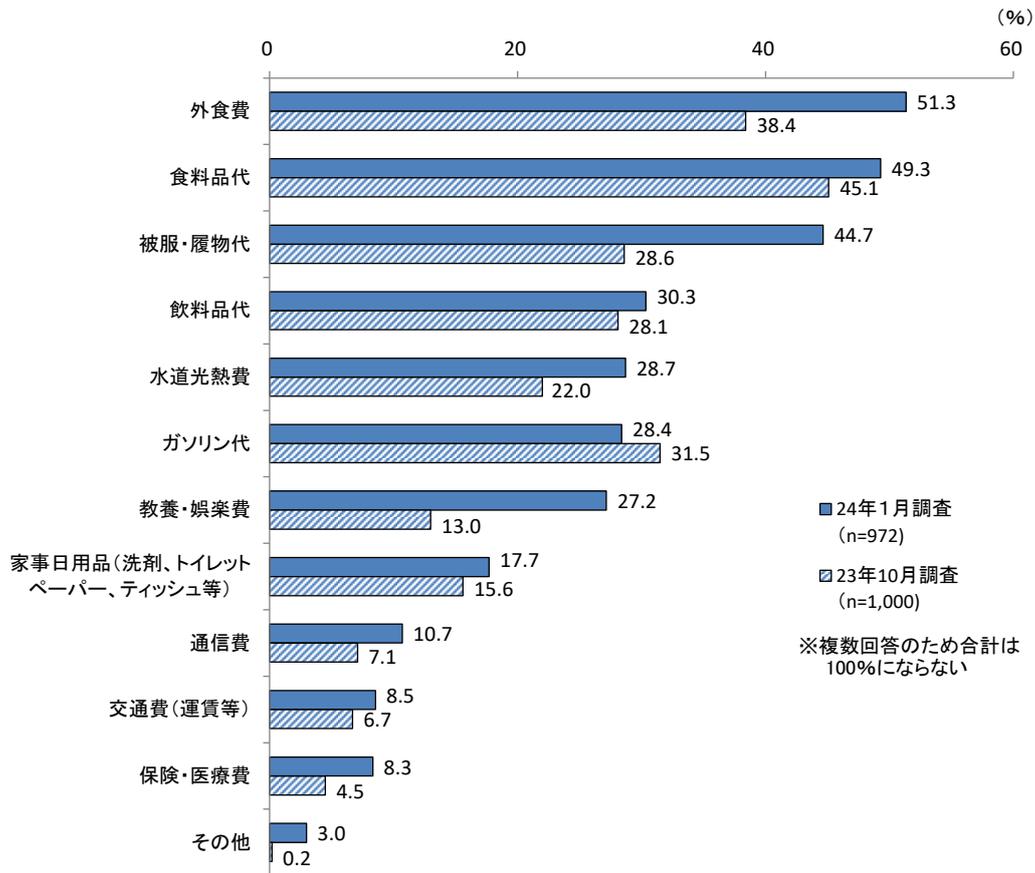


(注)いずれの調査も n=1,000

(3) 家計支出を抑えている項目は「外食費」が最多

- ・ 家計支出を抑制している項目について尋ねたところ、「外食費」が 51.3%と最も多く、次いで「食料品代」が 49.3%、「被服・履物代」が 44.7%などとなった（図表 5）。
- ・ 前回（23 年 10 月）調査と比較すると、「被服・履物代」が 16.1 ポイント、「教養・娯楽費」が 14.2 ポイント、「外食費」が 12.9 ポイント上昇した一方、「ガソリン代」が 3.1 ポイント低下した（図表 5）。

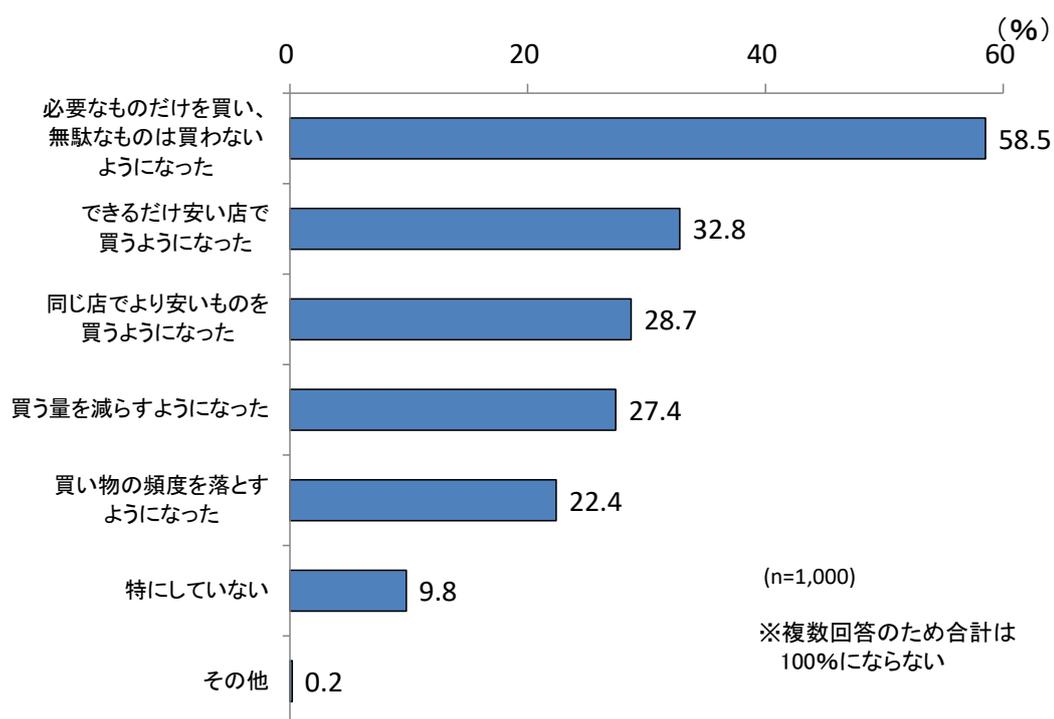
図表 5 家計支出を抑えている項目



(4) 最近の消費行動の変化は、「必要なものだけを買ひ、無駄なものは買わないようになった」の割合が約6割

- ・ 最近の消費行動の変化を尋ねたところ、「必要なものだけを買ひ、無駄なものは買わないようになった」が 58.5%と最も多く、次いで「できるだけ安い店で買うようになった」が 32.8%、「同じ店でより安いものを買うようになった」が 28.7%などとなった（図表6）。

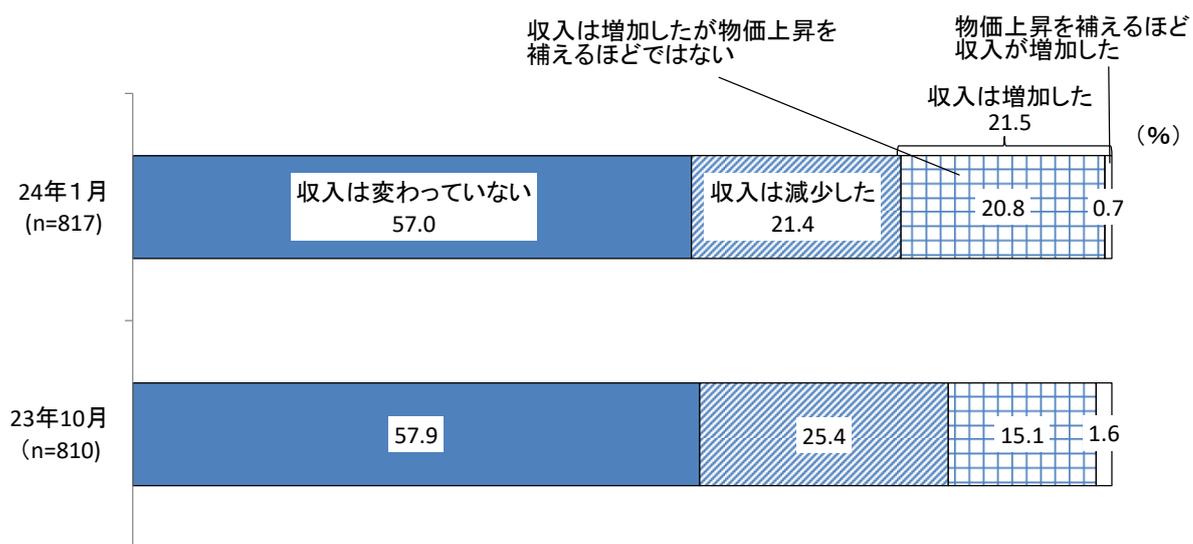
図表6 最近の消費行動の変化



(5) 「収入は増加した」の回答割合は4.8ポイント上昇

- 20～60代に収入の変化について尋ねたところ、「収入は変わっていない」が57.0%と半数以上を占めた。一方、収入は増加した（「物価上昇を補えるほど収入が増加した」＋「収入は増加したが物価上昇を補えるほどではない」）の回答割合は21.5%となり、前回（23年10月）調査に比べ4.8ポイント上昇した（図表7）。

図表7 最近の収入の変化

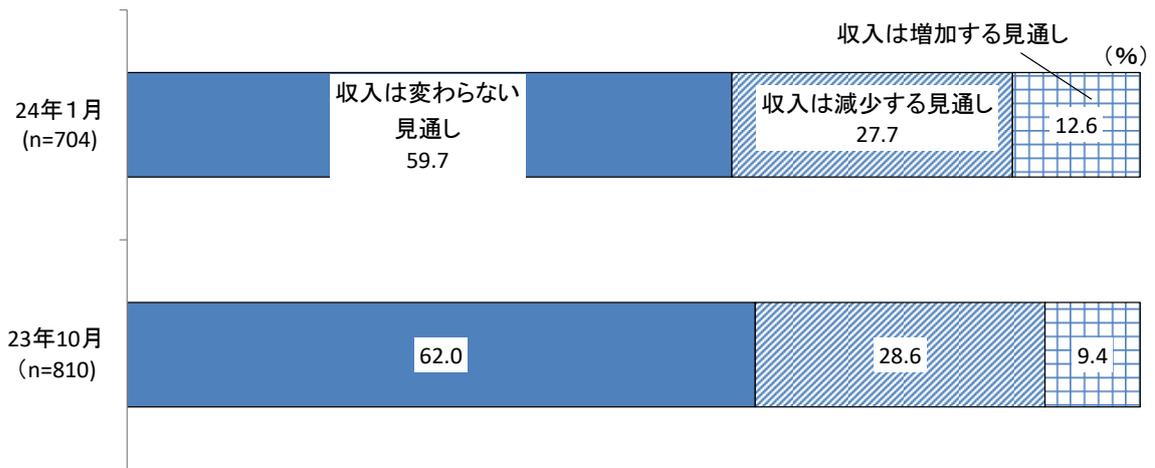


※サンプル数は、20～60代の回答者数による

(6) 「収入は増加する見通し」の回答割合も上昇

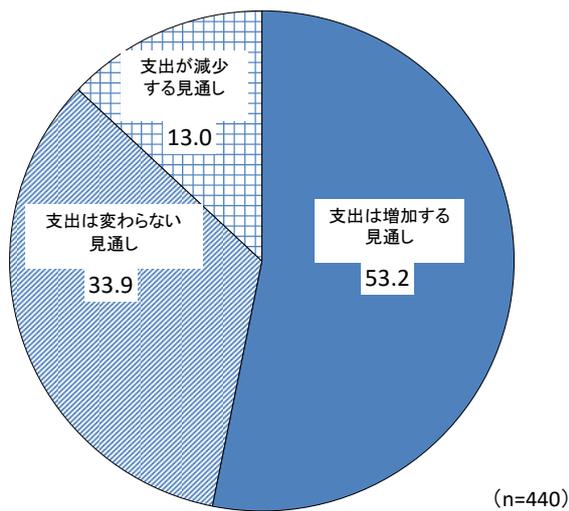
- 20～60 代の回答者に収入の変化見通しについて尋ねたところ、**図表 8**のように、「収入は変わらない見通し」が 59.7%となお半数以上を占めているが、前回（23 年 10 月）調査に比べて 2.3 ポイント低下した。一方、「収入は増加する見通し」は 12.6%となり、前回（同）調査に比べて 3.2 ポイント上昇した。
- 今後の支出の変化見通しについては、**図表 9**のように「支出は増加する見通し」が 53.2%と「支出は変わらない見通し」の 33.9%を上回った。

図表 8 収入の変化見通し



※サンプル数は、20～60 代の回答者数による

図表 9 支出の変化見通し



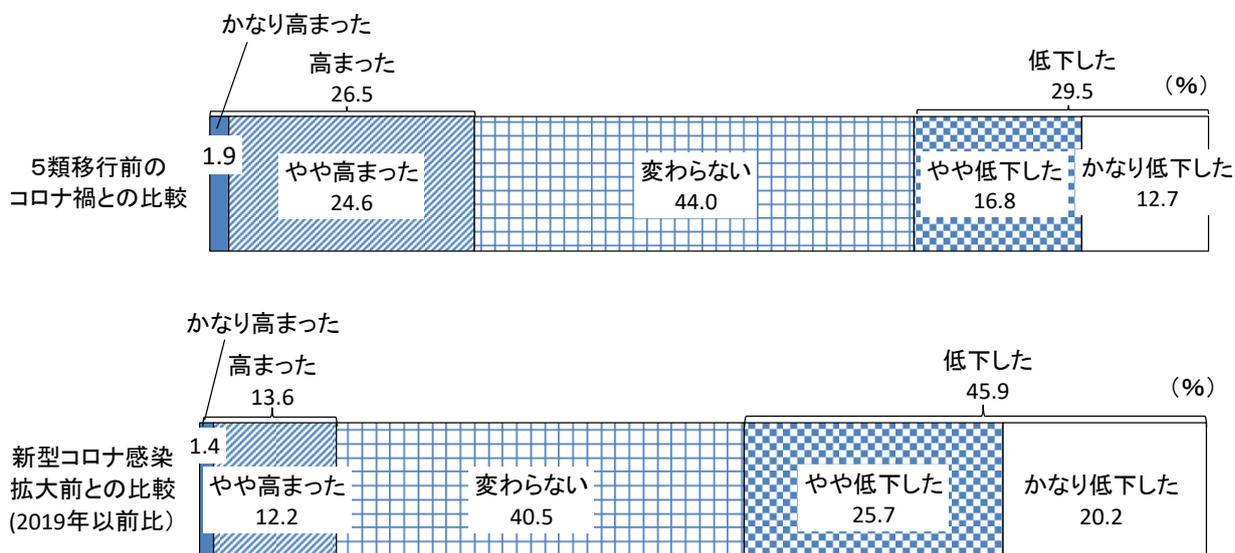
※サンプル数は、20～60 代の回答者数による

### 3. 外食の意識について

#### (1) 新型コロナ感染拡大前と比べ、外食頻度が低下した割合は4割強

- ・ 新型コロナが感染症法上の5類に移行する前（2023年5月以前）と比べた外食の頻度の変化を尋ねたところ、低下した（「やや低下した」＋「かなり低下した」）の回答割合は29.5%と、高まった（「やや高まった」＋「かなり高まった」）の回答割合26.5%をわずかに上回った（図表10）。
- ・ 新型コロナ感染拡大前（2019年以前）と比べた外食の頻度の変化については、低下した（「やや低下した」＋「かなり低下した」）の回答割合は45.9%となり、高まった（「とても高まった」＋「やや高まった」）の13.6%を大きく上回った。

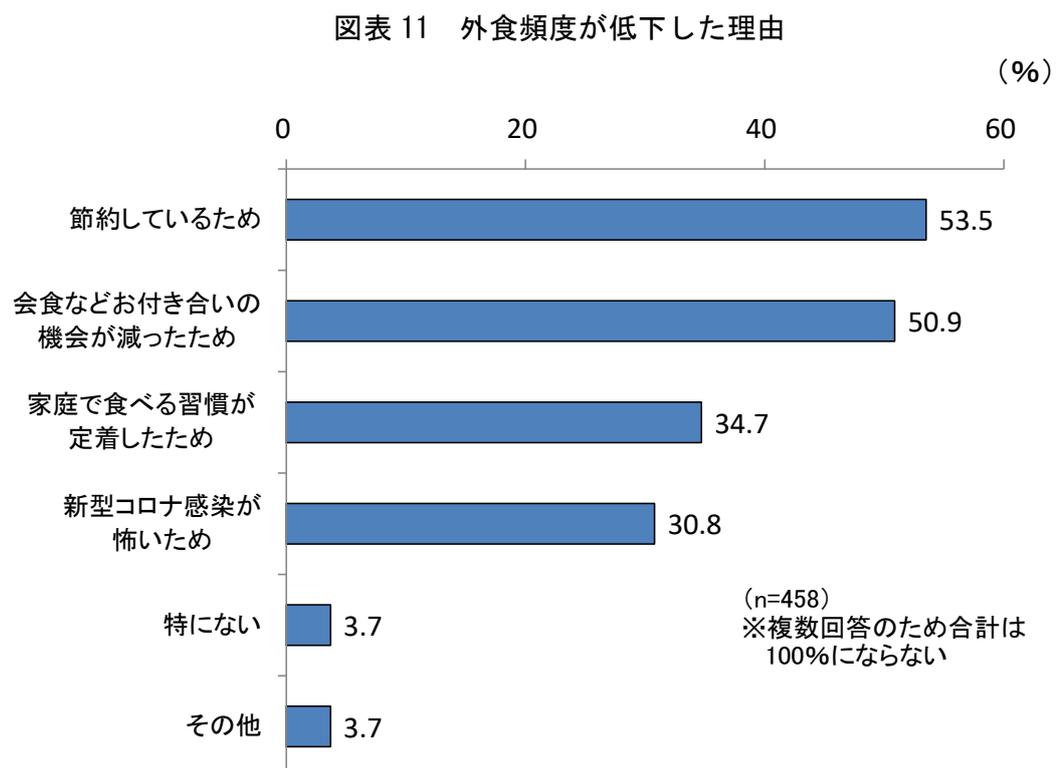
図表10 外食頻度の変化



(注) いずれの調査も n=1,000

(2) 新型コロナ感染拡大前と比べ外出頻度が低下した理由は、「節約しているため」、「会食などお付き合いの機会が減ったため」がそれぞれ5割を超える

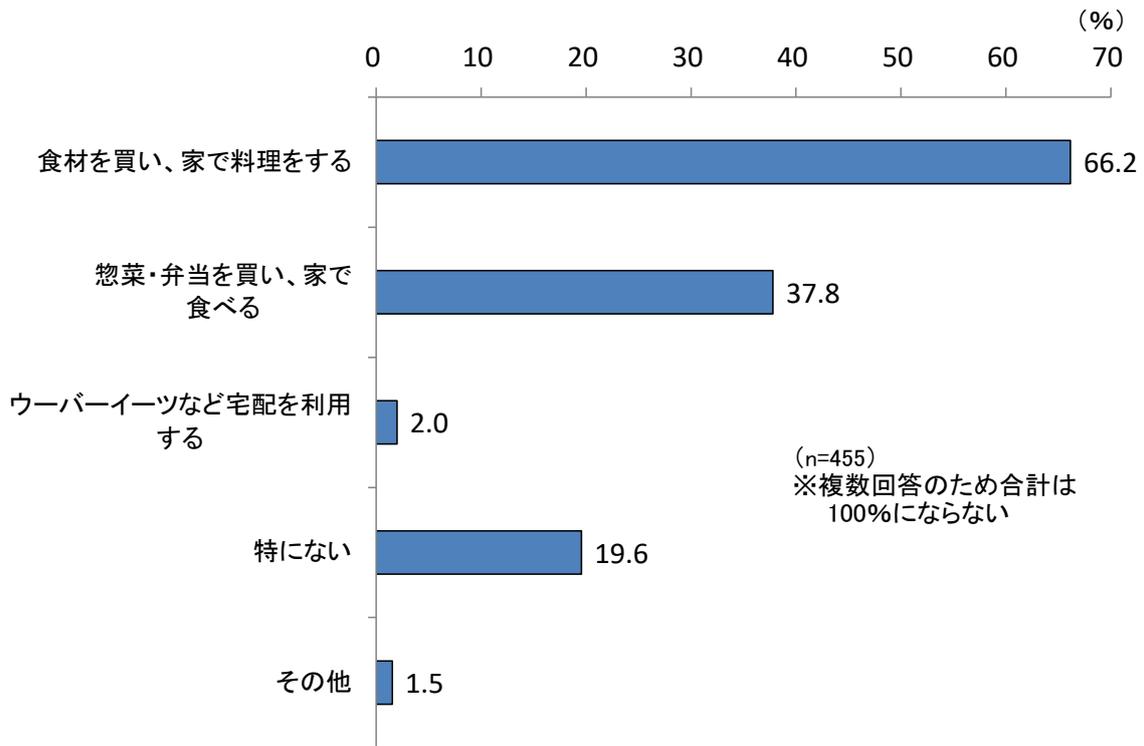
- 新型コロナ感染拡大前（2019年以前）と比べ外出頻度が低下した人にその理由を尋ねると、「節約しているため」が53.5%と最も多く、次いで「会食などお付き合いの機会が減ったため」が50.9%などとなった（図表11）。



(3) 外食を減らす代わりに増えた行動は、「食材を買い、家で料理をする」がトップ

- ・ 新型コロナ感染拡大前（2019年以前）と比べ外食を減らした人に外食を減らす代わりに増えた行動を尋ねると、「食材を買い、家で料理をする」が66.2%、「惣菜・弁当を買い、家で食べる」が37.8%などとなった（図表12）。

図表12 外食を減らす代わりに増えた行動

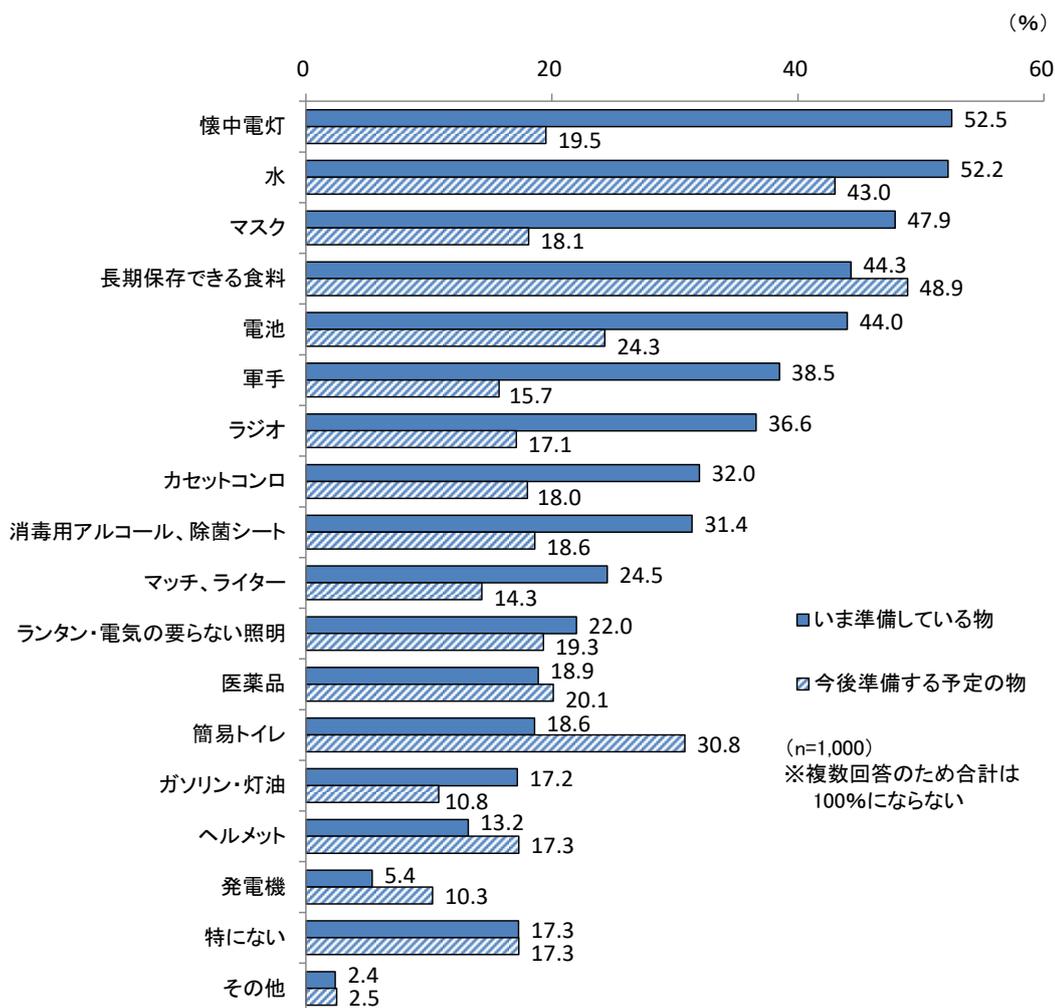


#### 4. 自然災害への備えについて

##### (1) 今後準備する予定の物は、「長期保存できる食料」が約5割で最多

- ・ 自然災害等に備えて、いま準備している物について尋ねたところ、「懐中電灯」が52.5%と最も多く、次いで「水」が52.2%、「マスク」が47.9%、「長期保存できる食料」が44.3%、「電池」が44.0%などとなった（図表13）。
- ・ また、今後準備する予定の物については、「長期保存できる食料」が48.9%と最も多く、次いで「水」が43.0%、「簡易トイレ」が30.8%などとなった。

図表13 自然災害等への備え



(2) 住宅の耐震性に不安を感じている人のうち、耐震補強工事の実施予定がない割合は7割を超える

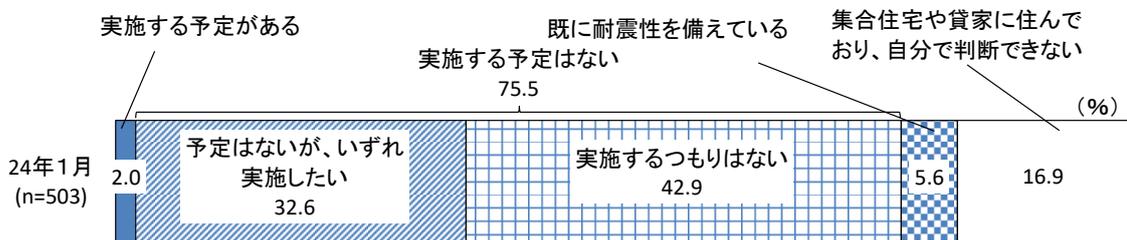
- ・ 自身の住宅に対する耐震性について尋ねたところ、住宅の耐震性については、**図表 14** のように「不安がある」の回答割合が 56.8%と半数を超えた。
- ・ 「不安がある」と回答した人に、住宅の耐震補強工事の実施予定を尋ねたところ、**図表 15** のように実施する予定はない（「実施するつもりはない」＋「予定はないが、いずれ実施したい」）が 75.5%となった。

図表 14 住宅の耐震性への意識と補強工事について



※集合住宅や貸家に住み、不安の有無を回答しなかった人を除く

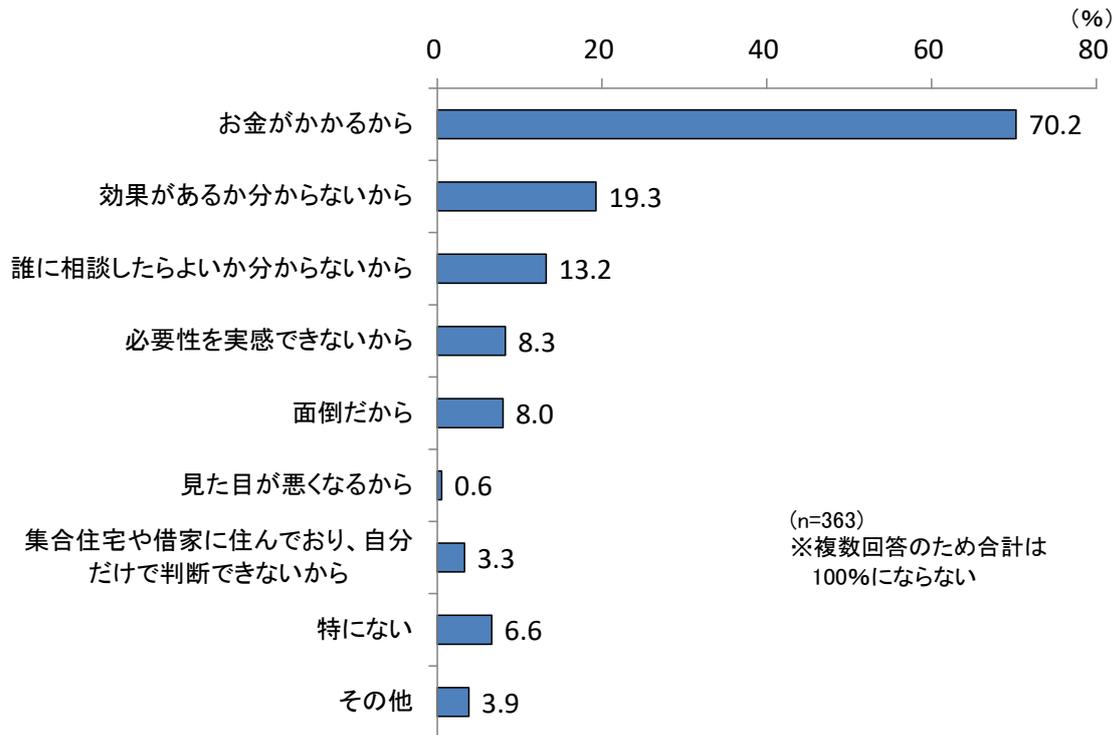
図表 15 不安があると回答した人の耐震補強工事の実施予定



(3) 耐震補強工事を実施しない理由は「お金がかかるから」が7割超

- 住宅の耐震補強工事を実施する予定がないと回答した人に理由を尋ねたところ、「お金がかかるから」が70.2%と最も多く、次いで「効果があるか分からないから」が19.3%、「誰に相談したらよいか分からないから」が13.2%などとなった（図表16）。

図表16 住宅の耐震補強工事をしない理由



以上